くみあいだより

JAなんぽろ

No.558
11
2023

JAなんぽろホームページアドレス　http://www.ja-nanporo.or.jp

南幌町農業協同組合

食欲の秋到来

10月14日（土）、エーコープなんぽろ店駐車場特設会場にて蔬菜園芸組合主催の収穫感謝祭が開催されました。蔬菜園芸組合では、野菜類が1つ50円、5kgネットの玉ねぎが300円、ニンニクが1袋300円で販売され、購入された方々からは、「今年は野菜が高騰しているのでこんなに安く買えて嬉しい」と喜びの声が上がりました。同会場では、JAなんぽろ青年部による新米販売も行われ、ピュアライスななつぼし新米5kgが1300円で販売され、用意した100袋は販売開始10分で完売となりました。購入された方々からは、「今年の新米をこんなに安く買えて良かった。家に帰って食べるのがとても楽しみ」と喜びの声が聞けました。今年の収穫感謝祭は、価格が高騰している中での開催となり、来場いただいた多くのお客様へ、無事に収穫の秋を迎えられたことの感謝を込め特別価格にて販売し、開始からわずか30分程で用意した品目全てが完売、大盛況で幕を閉じました。これからもJAでは、イベント等を通して安心で安全な農作物を消費者にPRしていきます。

町内小・中学生が地場産農作物を堪能

10月19日（木）、南幌町役場で南幌産農作物の贈呈式が行われ、林組合長から大崎町長と西田教育長に、南幌産の新米「なんぽろピュアライス・きたくりん」1トン、南幌産小麦「ゆめちから」2トン並びに南幌産野菜が贈られました。JAでは、南幌町の基幹産業である農業について小・中学生に学校給食を通じて興味や関心を持ってもらうとともに、食生活の大切さについて理解を深めてもらうため毎年食材提供を行っています。例年は、小学校で開催される給食の試食会に、当JAより代表理事組合長と蔬菜園芸組合長が参加し生徒たちと直接コミュニケーションを取っていましたが、今年度も新型コロナウイルス感染症対策を考慮し中止となりました。代わりに、林組合長から児童たちに向けて「農家の皆さんが、一生懸命に丹精をこめて育てた安心・安全な、南幌産農産物をふんだんに使った献立が、学校給食の食材として用意されていますので、美味しい農作物を堪能して下さい」とビデオレターを贈りました。10月23日(月)から27日(金)までを「南幌産給食週間」として、南幌産のお米と野菜が学校給食で使用されました。

元気いっぱいに稲刈り体験

9月19日（火）、南幌小学校の5年生が南幌町の農業を学ぶ総合学習の一環として、織田さん（鶴城）の学習田水稲圃場で稲刈り体験が行われました。

稲刈り体験で、児童たちは「稲の刈取り」「刈った稲を束ねる」「はさがけ」の作業を2人1組で行いました。

最初は、鎌を使った作業に慣れていなく緊張した様子でしたが、次第に、鎌の扱い方に慣れ稲刈り体験が進むにつれ、ほとんどの児童が手際よく作業をこなし、楽しんで収穫することができていました。普段、給食や家庭で口にするお米がどのように収穫されているのか、昔の人々がどれだけ苦労して収穫していたのかを学ぶ良い機会となりました。

稲刈り体験に先立ち、林組合長より児童たちに「皆さんが春に植えた苗が田んぼで立派に育ち、安心で安全な美味しいお米が収穫の季節を迎えました。怪我に注意し丁寧に稲刈りをしましょう」と話をしたあと体験に参加し、稲の刈り方のアドバイスや一緒にはさがけをするなど、交流を深めていました。

稲刈り体験の後、児童たちからは「普段食べているお米がこんなに大変な作業で作られていることを知ることができた」と感想が述べられ、「まだまだ稲刈りをしたい」という元気な言葉も飛び交いました。

刈り取られた稲は、脱穀と精米を行い小学校に贈呈されます。

令和5年産収穫終盤迎える

10月中旬、町内の野菜収穫が終盤を迎えているなか、野菜等集出荷センターには多種多様な野菜が集まっていました。

また、野菜が作付けされている圃場では、元気に大きく育ったキャベツや長ねぎを見つけました。本年は、連日に渡る猛暑の影響に悩まされた生産者も多くいましたが、終盤の作型を収穫する季節を迎え、安心した表情も見受けられました。

野菜の収穫は、11月上旬頃には終わる見込みです。今年度の農作業もあと少しですが、シーズン終盤の農作業事故に十分気を付けましょう。

電気磁気治療器で血行改善

10月10日（火）より、エーコープなんぽろ店2階で、ＪＡ主催の健康ふれあい館が期間限定でオープンしました。健康ふれあい館では、1回あたり20分程度の電気磁気治療器の無料体験会が行われ、体験中には、㈱フジ医療器の竹之下インストラクターが磁気治療器による健康改善について楽しく説明し、参加者は、笑顔で聞き入りほのぼのとした時間を過ごしていました。体験会に参加していたお客様からは、「最初は、何も感じなかったけど時間が経つにつれだんだんと体がぽかぽかしてきて血行が良くなっていることを実感出来た」との声が寄せられました。1日40名～50名の新規及びリピーターが訪れ毎日盛況な様子がうかがえました。

グリーンコミュニケーション

免税軽油作業日報の提出は 12月15日まで！

11月末で免税軽油の使用期間が終了します。

免税軽油の申請・使用は法令に基づく罰則規定がありますので以下の点にご注意の上、作成・提出をお願い致します。

- 作業日報は毎年更新していますので、古い日報を使わないようお願い致します。
- エクセルで提出の方は、データ内の雛形を参考に記入して下さい。
- 修正点が多い場合は再提出やその場でお時間を頂く場合がございます。

※日報入力に関してわからないことがあればいつでもグリーンセンターまでお問い合わせ下さい。

長船技師による営農情報！

ハウスの除塩対策について

土壌養分に起因して起こる農作物の生育障害の多くは、①pHの酸性化とアルカリ化、②EC上昇による濃度障害、③塩基バランスの崩れによるものです。

ハウス栽培では、露地と異なり降雨の影響のない環境条件で栽培されることから、施用された肥料の流防は殆どありません。このため、特にハウス栽培では土壌溶液濃度が上がりやすく、ECの高まりによる生育障害が発生しやすくなります。今月はこの対策について説明したいと思います。

1 ECと作物生産との関係

土壌の塩類濃度（EC）に対する耐性は作物の発芽や生育初期段階で影響を受けやすく、作物の種類にもより耐性が異なります。

（1）作物の種類とEC

・セルリー等は対塩性は高いが、イチゴ等は特にECの影響を受けやすく、トマトは比較的耐性がある。

・ハクサイ、キャベツ、レタスなどの葉菜類では、土壌中の窒素濃度が高く、ECが高いとカルシウムの吸収阻害を起こし芯腐れ症が発生します。

・ホウレンソウはECが高いと発芽障害や生育障害をおこしやすい。

表1　野菜畑土壌のpH・EC基準値

区　分	基準値	単　位	留意事項
pH	６．０～６．５	－	
EC	０．８以下	ms/cm	たまねぎは０．６以下 きゅうりは０．５以下（中粒質土壌）

2 ECを下げる方法

ハウス土壌における除塩法として次のような方法があります。

（1）クリーニング作物による除塩

・イネ科のトウモロコシ、ソルガム等などが多く利用されています。生育が旺盛で窒素やカリウムの吸収量が高いがリン酸、石灰等は余り低下しない。

・クリーニング作物の除塩効果を期待するには５０日間の栽培期間が必要です。

・栽培上の留意事項として、緑肥を十分に育成した後、刈り取って圃場外に持ち出す。圃場内に鋤き込むと残渣が分解して、土壌中に放出されます。

・表層の除塩では湛水除塩が優れるが、深層の除塩ではクリーニングクロップの効果は高い。

ソルガム

ギニアグラス

スーダングラス

（2）深耕による希釈

・一度に作土を深くすると養分が希釈されすぎ生育が遅れる場合があるので、生育を見ながら少しづつ深くしていくことが望ましい。

（3）ハウス被覆除去による除塩

・冬期間ハウスビニールを除去し雪による塩類除去が効果が高い。

・栽培終了後に深耕ロータリーで４０cm程度の深耕を行っておけば、透水性が良くなり除塩効果が高い。

（4）灌水（かけ流し）及び湛水処理による除塩

・十分な除塩効果を期待するには少なくても３００mmの灌水が必要です。

・１００mm／日の灌水割合で一時湛水処理を３日間連続することで十分な除塩効果が得られます。

・３００mmの灌水で、表層の硝酸態窒素、硫酸根は減少するがリン酸はあまり減少しない。

参考資料：新版　土壌診断と対策、北海道施肥ガイド2020

業務時間の変更について

標記の件につきまして、11月1日(水)より、
営業時間が変更となりますのでお知らせ致します。
期間：11月1日(水)～3月31日(日)

		平　日	土曜・日曜
		営業時間	営業時間
本部事務所		8:30~17:00	休　業
グリーンセンター		9:00~17:00	休　業
野菜関連施設		11月　8:00~17:00 12月以降　8:30~17:00	11月　8:00~17:00 ※野菜受入のため土日営業 12月以降　8:30~17:00 ※野菜受入のため日曜日のみ営業
JAバンク JA共済	(貯金窓口)	9:00~15:00	休　業
	(融資窓口)	9:00~15:00	
	(共済窓口)	9:00~17:00	
	※11:30～12:30の間、全ての窓口業務を休止		
ATM		9:00~18:00	9:00~17:00 ※エーコープATM土曜日営業 (本部事務所ATM土日祝休業)
本部給油所		7:30~18:00	7:30~18:00
エーコープなんぽろ店		9:30~20:00	9:30~20:00

農協法公布記念日にあたっての
組合員・役職員へのメッセージ

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長　樽井　功

昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で76年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、今日に至っております。新型コロナウィルス感染症の位置付けは本年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

コロナ禍、国際紛争によって、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

ＪＡグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいかなければなりません。

この厳しい時代だからこそ、国民が必要とし消費する食料はできるだけその国で生産する「国消国産」という考え方は、消費者に知っていただきたい大切なテーマであり、１９４５年に国連食糧農業機関（ＦＡＯ）が発足した日、さらに１９８１年に国連が「世界食料デー」に定めた日である10月16日を、「国消国産の日」として制定し、令和３年に日本記念日協会に登録しました。

今こそ、この国消国産の周知、さらにはＪＡ北海道大会で確認された５５０万人サポーターづくりを推進するべく、ＪＡグループ北海道が一体となって「アグリアクション北海道」と題した統一した取組みをしっかりと実践することが必要となります。

最後になりますが、ＪＡグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とＪＡの発展に全力でサポートすることをお誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。

理事会報告

10月20日

10月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【監査講評】
1. 第2四半期末 自治監査

【議　案】
1. 令和5年度 8月期ディスクロージャー（半期開示）の作成について
2. マネロン等防止に係る取組状況（リスク評価書）について
3. 出資金の減口について
4. 秋の経営懇談会の開催日程について

【報告事項】
1. 第6回 営農振興組合長会議の開催結果について
2. 農産物の生育状況について
3. 令和5年度 営農賦課金の確認および徴収について
4. 令和6年度 作付意向面積の集計について
5. 令和5年度 南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設の小麦本精算について
6. 令和5年度 南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設の水稲操業状況について
7. 9月末 農産物の保管状況について
8. 9月末 蔬菜販売状況について
9. 9月期 JAローンの貸付について
10. 財務諸表等監査（期中I）の結果について
11. 内部監査の実施報告について
12. 金利設定会議の開催報告について
13. 令和6年度 職員採用の内定について
14. 規程（別表）の一部改正について
15. リスク情報について
16. 9月末 財務状況について

表紙の紹介

◎今月号は、食材贈呈式の様子を表紙にしました。

南幌町 フォトコーナー

▲記事では載せきれなかった収穫感謝祭の様子をお届けします

編集後記

秋の訪れを感じられる気温の日がかなり多くなり、町内の街路樹も紅葉が進んできました。釣りが趣味の吉田は、早朝から震えながら釣りをしています。深夜や早朝等路面凍結の恐れがありますので、運転には十分に注意してください。

くみあいだより担当の吉田は、電気磁気治療器を体験しました。足が軽くなった気がします。

私達のJA

令和5年9月末日現在

組合員	2,666名
（前年同期比	▲31名）
正組合員	431名
（前年同期比	▲15名）
准組合員	2,235名
（前年同期比	▲16名）
正組合員戸数	272戸
（前年同期比	▲8戸）

発行　JAなんぽろ　〒069−0293　空知郡南幌町栄町1丁目4番7号
TEL 011−378−2221(代表)、011−378−2274(直通)　FAX 011−378−0846　発行日　令和5年11月1日　企画・編集　営農部農業振興課　印刷　㈱トリムシステム
ホームページ　http://www.ja-nanporo.or.jp　メールアドレス　koho @ ja-nanporo.or.jp